

陽子線セラピーニュース



目次

センター長あいさつ … P.1

陽子線治療料について … P.2

当センター職員の受賞について … P.3

開設から現在までの状況（患者動向） … P.4

治療開始10年目を迎えて

2013年2月に国内8番目の陽子線治療施設として開院した当院は、今年で10年目の節目の年を迎えました。2022年5月末までに約4,700名の方が当センターで治療を受けており、2021年度は666名の治療数でこれは国内にある19か所の陽子線治療施設のなかで全国最多の患者数となっています。これまで陽子線治療にご理解をいただき陽子線治療を選択していただいた皆様、多くの患者さんをご紹介いただき治療後も共同診療の形で多大なるご協力をいただいた多くの医療関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

2022年4月は診療報酬改定の年であり、今年度から①4センチメートル以上の大きさの肝細胞癌、②肝内胆管癌、③局所進行性膵癌、④大腸癌術後再発の4つの病態（いずれも切除不能のものに限る）に新たに保険適用がなされました。いずれも従来のX線治療と比較し治療効果の優越性が証明されたことが先進医療会議で認められたもので、従来これらの病態には根治的な治療法の選択肢があまりなく、多くの患者さんや医療関係者の方々からも強い要望のあった病態です。現在すでに2年後の診療報酬改定にむけて全国の粒子線治療施設が活動を始めており、その動きに積極的に当センターも関与することでさらなる保険適用の拡大を目指し、より多くの方々にご利用していただきやすい環境を作っていきたいと思っています。



名古屋陽子線治療センター
センター長 荻野 浩幸

放射線治療は外来で根治的な治療ができるという大きなメリットがある一方で、治療期間が長いことから通院していただく負担が問題となっていました。少しでも治療を受けられる方の利便性を増すことをめざして、2020年1月から開始した前立腺がんに対する12回での治療法は、多くの方々のご希望をいただきながらこれまで来ております。臓器によっては治療回数を減らすことが難しいものもありますが、今後もしのける限り治療回数も減らすことで皆様の通院負担を少しでも減らす方法にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

10年目の節目を迎え、これまで積み重ねてきた治療内容を吟味することでこれまで以上に多くの方にとって有効性と安全性の高い治療を受けていただけるような取り組みを行っていききたいと思います。

陽子線治療料について ~令和4年4月から保険適用拡大~

<現在健康保険が適用されない疾病>先進医療による治療を引き続き実施している疾病

- 肺がん ●食道がん ●肝細胞がん（長径4cm未満） ●転移性腫瘍 等



<保険診療でない場合の陽子線治療料の自己負担額>

288万3,000円※民間医療保険の先進医療特約により負担が軽くなることもあります。

288万3,000円



<現在健康保険が適用される疾病>

- 前立腺がん（転移のない限局性・局所進行性のもの）
- 頭頸部悪性腫瘍（口腔・咽喉頭の扁平上皮がんを除く）
- 骨軟部腫瘍（手術による根治的な治療が困難なもの）
- 小児がん（限局性の固形悪性腫瘍のもの）
- 肝細胞がん（長径4cm以上の手術による根治的な治療が困難なもの）
- 肝内胆管がん（手術による根治的な治療が困難なもの）
- 局所進行すい臓がん（手術による根治的な治療が困難な局所進行性のもの）
- 大腸がん術後再発（直腸がんなどの大腸がん術後の再発で、手術による根治的な治療が困難なもの）

※赤字は令和4年4月から保険適用された疾病



<保険診療の場合の陽子線治療料の自己負担額>

- 前立腺がん・・・160万円の1～3割
- 頭頸部悪性腫瘍、骨軟部腫瘍、小児がん、肝細胞がん（長径4cm以上）、肝内胆管がん、局所進行すい臓がん、大腸がん術後再発・・・237万5,000円の1～3割

1～3割

健康保険からの負担



- 「高額療養費制度」など、さらに自己負担額を軽減する制度を利用した場合（加入する健康保険組合などにお問い合わせください）

自己負担限度額

健康保険からの負担



さらなる自己負担軽減分

当センター職員の受賞について

岩田宏満氏（陽子線治療科副部長・准教授）が受賞されました。

○第81回日本医学放射線学会総会（JRC2022）CyPos 賞Gold Medal

「前立腺癌に対する12回寡分割照射法による画像誘導陽子線治療の第Ⅱ相臨床試験」

○第34回優秀論文賞（2022），日本医学放射線学会

「Concurrent Chemo-Proton Therapy Using Adaptive Planning for Unresectable Stage3 Non-Small Cell Lung Cancer: A Phase 2 Study」

International Journal of Radiation Oncology · Biology · Physics. 2021 Apr 1;109(5):1359-1367.



第81回日本医学放射線学会総会CyPos賞
(Gold Medal) 授賞式の様子

※日本医学放射線学会は、「放射線科学及びその関連分野に関する学術について研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学術団体との連携協力等を行うことにより、これらの分野の進歩・普及・啓発を図るとともに、安全で質の高い医療を提供するための事業活動を通して、国民の健康と福祉の増進に寄与すること」を目的として活動している団体です。

歳藤利行氏（陽子線治療物理科係長）、大町千尋氏（陽子線治療物理科技師）が所属するグループが受賞されました。

○第11回（2021年度）高エネルギー加速器科学研究奨励会諏訪賞

「物質と放射線との反応シミュレーションプログラム：Geant4の国際的な開発運用」



第11回奨励賞記念シンポジウムの様子

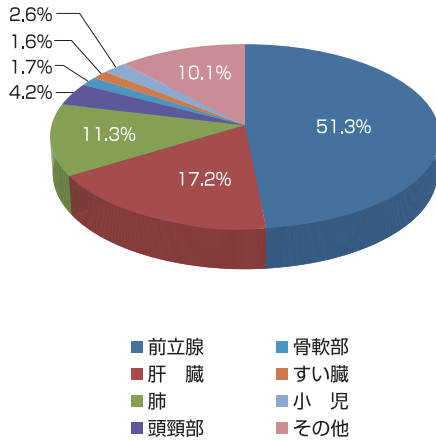
※諏訪賞は、高エネルギー加速器科学研究奨励会が制定する奨励賞の1つです。「加速器科学の発展上、長期にわたる貢献など特に顕著な業績があったと認められる研究者・技術者・研究グループ」を対象としています。

本受賞では、高エネルギー実験のみならず、粒子線治療などの医学応用分野における応用拡大に関する業績が評価されました。

開設から現在までの状況（患者動向） 令和4年6月30日時点

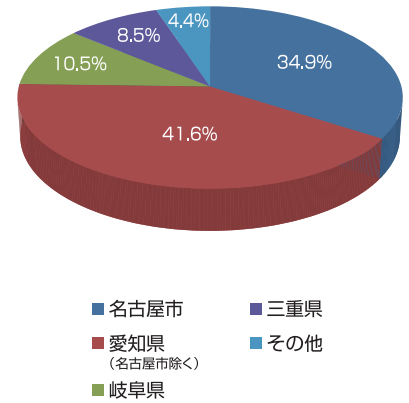
■ 部位別治療患者数

部位	人数
前立腺	2,452
肝臓	821
肺	539
頭頸部	203
骨軟部	83
すい臓	76
小児	122
その他	483
合計	4,779



■ 居住地別治療患者数

居住地	人数
名古屋市	1,668
愛知県 (名古屋市除く)	1,989
岐阜県	504
三重県	406
その他	212
合計	4,779



治療開始約9年半で、4,700人を超える治療を行いました。

■ 主な治療成績（2021年10月開始分までのデータ解析）

当センターの主な治療成績（前立腺・肝臓・肺の再発件数・生存率）について、ウェブサイトにて公開しました。QRコードやURLなどからウェブサイトへアクセスしてご覧ください。

● 前立腺がん治療成績



● 肝臓がん治療成績



● 肺がん治療成績



ホームページではセンターの紹介や陽子線治療に関する説明などを載せています。受診の流れなどを示したパンフレットなど送るようホームページから請求することもできます。ぜひ、ご覧ください。

名古屋陽子線治療センター

検索



陽子線セラピーニュース

●発行・編集／名古屋市立大学医学部附属
西部医療センター
名古屋陽子線治療センター
運営企画室

〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1
電話 052-991-8588 FAX 052-991-8599
<https://www.nptc.med.nagoya-cu.ac.jp>